

我ら 50 期 ここにあり

“将来”が近づいてきた

二回目の進路懇談が終わりました。自分の進む道が見えてきた人は、後はそれに向かい努力を続けていくとやる気に満ち溢れているのではないでしょうか。一方、志望校はあるけど成績が思うようにならず、これから迎えるテストがすでに不安な人、迷ったり考えがまとまらなかつたりして、次の進路希望調査や懇談までにどう考えていこう…と今から焦っている人もいるかと思います。そんな中、すぐ希望調査をとったらテストが立て続けにあり、また懇談会。そこでは成績が発表され私立を本格的に決めなければならない。誰にとっても身も心も大忙しですね。

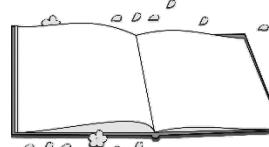
『路』という感じの成り立ちを調べました。「各」は「いたる」の意味。足を意味する「足」と組合せ、人が歩き至るときの道の意味を表したのが最初だそうです。しかしそこから沢山の意味が含まれました。『人や車馬が行き来する道』といった読み方通りの意味もあります。そして辞書では、『すじみち、やり方、道理、方法、やり方、しかた』と続きます。さらに、自分自身はあまり使ったことがないですが、重要な地位、大きい、旅行、旅をする、あらわれる、あらわす』というものや、『つかれる、やぶれる、おとろえる』というマイナスイメージの意味もあるのです。進む路と書いて『進路』ですが、この意味を見ると、一筋縄では行かなそうですね。

今、50期の皆さんには、自分の将来へ、考え迷いながら自分なりの方法を探し、進んで行かなければなりません。今までの3年間で1番勉強したり、悩んだり、真剣に取り組んだりする人が多いでしょう。しかし、真剣になればなるほど、その中では様々な壁があり、疲れたり挫折したりする事もあるということです。が、そこで諦めたり焦ったりするのではなく、1歩1歩確実に足を動かして進み、自分のえがく将来へ至って欲しいと思います。あと四ヶ月。後悔の無いように過ごしてください。



卒業文集

50期たちが卒業文集を書き始めると聞いて、自分の文集を引っ張り出してみました。卒業アルバムは何度か友人たちと眺めたことがあります、文集は卒業してからはじめてかもしれません。自分の文章を探すためにパラパラとめくっているうち、何人かの文章を読んでいました。卒業してからほとんどの同級生なんて同窓会で会う程度ですが、一人ひとりの性格や考え方、その子との思い出などが一気に蘇って楽しくなりました。3年間が400文字に詰まっている密度の濃さからか、卒業アルバムの写真を見たときより、内側の部分が鮮明に思い出されたように感じます。結局全部読んでしまいました。そして、自分の文章も発見しました。へたくそな字と文章に笑いましたが、当時こんなことを考えていたのかーと懐かしくなり、今日からも頑張ろうという気持ちになることができました。



一生の財産になる、大切な文集です。じっくりと3年間を振り返って、何を書こうか一生懸命吟味してください。

一人ひとりのちょっとでつなげる

今年の合唱コンクールは、時期もやり方も例年とは違います。例えば受験や卒業準備との両立の中でするので、クラスでの練習時間があまりない。並び方も違い、一人ひとり距離があつて最初は戸惑いましたね。真剣に考えているからこそ、「今年やばいなあ、無理かもなあ…。」というつぶやきも聞こえています。

しかし、『コロナのせいで仕方ない』と、諦める50期でしょうか。様々な行事を成功させてきた3年間の集大成として、何より君たち自身がそれで満足するでしょうか。こんな時こそ、1人1人の少しの協力が大切な気がします。ちょっと家で空いた時間や勉強に飽きたときに、歌のことを思い出し、口ずさんでみてください。給食中のBGMにいつもよりちょっとだけ耳を傾けてみてください。音楽の授業をちょっと真剣に頑張ってみてください。朝練が始まつたら、ちょっといつもより早めに来てください。歌うとき、ちょっと声を大きくしようと思ってみてください。足りない時間や離れた距離分は心で埋める。そんなちょっとずつを頑張ったみんなが全力で歌う合唱コンクールは素晴らしいものになるでしょう。

